

第1回二戸市総合計画審議会 議事録（要旨）

開催日時：令和8年7月15日（水）

午後1時30分～3時10分

開催場所：二戸パークホテル

【出席委員（敬称略）】

役重眞喜子、重浩一郎、横森浩道、高橋美佐子、黒沢真照、田村隆義、太田郁夫、生内雄二、坂本敏美、馬淵貴尋、小保内威彦、相馬秀子、横館真知子、佐藤智広、山本卓也、黒澤一史、五日市真一、長島まどか、青谷耕成、高橋英司、内沢由美子、品川淳二、大建ももこ、小軽米健太、薄井大輔、大久保瞳、荒谷雄幸

【説明のため出席した職員】

千葉守副市長、佐藤順教育長、泉山茂利樹総務部長、五日市寿丸市民部長、泉山武將健康福祉部長、田口了産業振興部長、古山淳夫建設整備部長、三浦豊浄法寺総合支所長、立花幸博教育部長、横館英昭総務部副部長兼総合政策課長、藤原悠治政策推進特命課長

【会議の概要】

※開会に先立ち、出席委員の紹介と市側出席者の紹介、欠席委員の報告

1. 開会
2. 委嘱状の交付
3. あいさつ

◆副市長

本日は、お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。開会にあたりまして、一言あいさつを申し上げます。

委員の皆様には、日頃から市政の推進に多大なるご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

本日、五日市市長が体調不良により欠席しておりますため、私が市長職務代理者としてご挨拶を申し上げます。市長も皆様とのお話を心待ちにしておりましたが、叶わず本当に残念なところでございます。

なお、午前中に行われた市議会議員全員協議会においても、次期総合計画の策定について説明をしたところでございますが、大変熱心に多くの意見をいただいたところでございます。

本日は私が市長職務を代理し、責任をもって本審議会を進めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新体制となりました本市におきましては、先人たちが築いてこられた歴史や文化、そしてこれまでに着実に進められてきたまちづくりの土台をしっかりと受け継ぎ、さらなる発展に向けて全力を尽くす決意で臨んでおります。

現行の「第2次二戸市総合計画」においては、金田一温泉や九戸城跡、天台寺での公民連携事業、浄法寺漆の振興、さらには産業や暮らしを支える基盤整備など、多くの大切な土台が築かれてまいりました。また、今年の1月には合併20周年の大きな節目を迎え、未来へ向けて新たな一歩を踏み出したところでございます。

しかしながら、本市を取り巻く環境は、一層進行する人口減少や担い手不足、物価高騰による影響など、依然として厳しい状況にあります。これからの時代を生き抜くためには、これまでに築いた土台を最大限に活かしながら、「持続可能なまちづくり」を力強く進めていかなければなりません。

そこで、本日からスタートいたしますこの審議会では、令和9年度からの本市の指針となる「次期総合計画」の策定に向けて、委員の皆様から広くご審議をいただきたく存じます。

時代の大きな変化に対応し、誰もが健やかに、生きがいを持って住み続けられる二戸市を創り上げていくため、委員の皆様幅広いご見識と、専門的・実践的な視点からの活発なご議論を心より期待申し上げます。

新しい二戸市の未来を拓くため、どうぞよろしくお願い申し上げます。

4. 議事

(1) 会長及び副会長の選出について

※二戸市総合計画審議会について事務局より説明。次に、副市長進行のもと、会長と副会長を選出。事務局案として、会長に生内雄二委員、副会長に馬淵貴尋委員を提案し、承認を得た。

○生内会長（会長あいさつ）

皆様、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

10年前、私が55歳の頃、何かの役割でこの会に参加したことを覚えています。その際、「これからの10年間の二戸をどのように考えていくか」と意見を求められましたが、うまく話すことができませんでした。二戸の10年後の未来について、強い意志や思い、そして未来に託そうとする決意を、うまく言葉にできなかったと記憶しています。

だからこそ、今回、新たな10年間の計画について意見を述べるメンバーに選ばれたことを、本当に良い機会だと受け止めていただきたいと思います。

この計画が終わる頃には、私も75歳になります。その頃には、二戸市のことに口を出すことも難しくなっているかもしれません。

今日から全5回、皆様には意見を伝える機会があります。ぜひ、それぞれの分野から、自分事として思い描く未来や、二戸市に託したいことをお話しいただきたいと思います。

「私はこうしたい」「二戸市にこういうことを伝えたい」「二戸市にはこうなってほしい」といったご意見を、率直に、腹を割って話し合える会にしたいと考えております。

○馬淵委員（副会長あいさつ）

このたび、副会長を務めさせていただくこととなりました、二戸職業訓練協会の馬淵と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

微力ではございますが、生内会長をしっかりと支えてまいりたいと考えております。

私は、二戸職業訓練協会と二戸地域雇用開発協会の事務局を務めております。団体名のとおり、職業訓練や能力開発、雇用に関する分野を専門としております。

委員の皆様から活発にご意見をいただき、会議が円滑に進むよう、しっかりと支えてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○生内会長

それでは、引き続き議事を進めてまいります。委員の皆様のご協力をお願いします。

議事の（2）第2次二戸市総合計画の概要及び後期基本計画の評価について、から（5）意見集約の状況について、まで。以上4件については関連がありますので、事務局より、一括で説明願います。

(2) 会長及び副会長の選出について

(3) 第2次二戸市総合計画の概要及び後期基本計画の評価について

(4) 二戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

(5) 意見集約の状況について

※事務局より一括説明

○生内会長

説明が終わりました。本来であれば、ここで、ただいまの説明に対する質疑を行うべきところですが、このあと意見交換も予定しております。

今の説明に対する質問なども含めて、意見交換を行ってまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。はい、ではそのように進めさせていただきます。

(6) 意見交換

それでは、意見交換にはいらさせていただきます。

本日は最初の会議でありますので、皆様から、日頃の活動や普段の生活の中で感じていることなど、将来を見据えたご意見をお聞かせいただきたいと思います。

それでは、はじめに地方自治に精通されており、現在は県の企画参与などにも関わっておられる役重委員からお願いします。長年、行政の現場で地域づくりなどに携わってこられたご経験をお持ちですので、地域と行政の姿も踏まえてお話をお聞かせいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○役重委員

改めまして、県立大学の役重と申します。

本日は、二戸市を代表する皆様、そして日頃から市政を支えてくださっている皆様が一堂に会されたことを、大変うれしく思っております。先ほどから皆様のご挨拶を伺い、総合計画の策定に大いに期待できるのではないかと感じたところです。

県立大学では、最近、県北地域から進学する学生が増えております。昨年も、二戸市出身で、駅前にあるご自身、あるいはご家族の実家に関わる商店街を何とか盛り上げたいという思いを志望理由に記し、入学した学生がいました。私のゼミにも、現在、軽米町出身の学生が在籍しています。二戸市は県北地域の拠点となるまちですので、その意味でも大いに期待しております。

本日は第1回の会議ということで、十分に有益なことをお伝えできないかもしれませんが、話題提供として申し上げます。

市の皆様はご承知のことと思いますが、現在、国では、今後の地方自治制度を根本的に見直す必要があるとして、「第34次地方制度調査会」で議論が進められています。その中で特に危機感を持って重視されている課題の一つが、自治体の人材不足です。

公務員志望者が減少する中で、自治体職員の確保が難しくなっています。職員が不足すれば、これまで職員が支えてきた住民自治や、自治会・町内会などを支援するための人的資源も減少することになります。

それぞれの自治体が、自らのまちづくりをどのように進めるかを考えることは非常に重要です。しかし、自治体の努力だけでは解決できない問題もあります。国から自治体へ長年にわたって多くの業務が移され、自治体だけでは対応しきれないため、さらに町内会や自治会へ負担が移っていくという、下の組織ほど苦勞する構造が日本社会に根付いてしまっています。

そこで、今回期待することの一つは、二戸市を今後どのようにしていくかを考えるとともに、近隣市町村との広域連携によって何ができるのかについても、しっかりと検討することです。さらに、その実現を妨げている国の仕組みをどのように変えるべきかという点についても議論し、国に対して堂々と意見を発信する審議会であってほしいと思います。

もう1点、申し上げます。

前回の総合計画を拝見した感想として、住民自治や地域自治に関する重点の置き方が、他の自治体の計画と比べてやや弱いのではないかと感じました。

先ほどご説明いただいた重要度と満足度のグラフでは、「重要であるにもかかわらず、満足度が低い」項目の一つに、若者や女性の活躍がありました。一方、地域コミュニティについては、重要度が低く、満足度が高いという結果になっていました。この結果をそのまま受け止めると、次期計画でも地域コミュニティがあまり重視されないことになるのではないかと懸念しております。

しかし、地域における女性や若者の活躍の場が不足しているのであれば、「それはなぜなのか」を考える必要があります。単に仕事がないということだけではなく、地域の中で、たとえ小さな取組であっても、意欲を持つ人の背中をどのように押すことができるのかを、しっかりと議論することが重要です。

そうした取組が、将来にわたってまちづくりの担い手を増やすことにつながると考えておりますので、その点についても、ぜひご検討いただきたいと思います。

○生内会長

役重委員、大変貴重なご示唆をいただきありがとうございました。

それでは続きまして、同じく、学識経験者の視点から、重委員にお話を伺いたいと存じます。

重委員は、都市計画や環境政策がご専門で、かつては県の職員として、総合計画の策定をはじめとする行政実務に携わられており、青森県総合計画審議会の委員も務められていると伺っております。

今後の計画策定に向けて、専門的・実践的なアドバイスをいただけますでしょうか。

○重委員

八戸高専の重と申します。よろしくお願いいたします。

先ほどご紹介いただきましたとおり、私は数年前まで岩手県の職員をしており、総合計画策定の初期段階に携わっておりました。また、青森県総合計画審議会の委員も務めておりますので、これらの経験を踏まえてお話しさせていただきます。

私の専門は環境政策です。現在、青森県では、再生可能エネルギーと地域との共生が大きな課題となっています。

再生可能エネルギーは、地球温暖化対策として環境に優しいものとされています。一方、例えば八甲田山周辺に何百基もの風力発電設備が建設されることになれば、景観への影響だけでなく、県民感情の面からも問題が生じます。

こうした問題を受け、青森県では全国に先駆けて、再生可能エネルギーと地域との共生に関する条例を制定しました。

これまでは、主に環境アセスメント制度を活用しながら、再生可能エネルギーの導入が進められてきました。しかし、実際に事業を行うのは関東や首都圏などの県外事業者が多く、地域の風や太陽といった資源が利用される一方、そこで得られた利益は地域外へ流出しているという現状がありました。

こうした状況に一石を投じたのが、この共生条例です。具体的には、再生可能エネルギーによって生み出された利益を、地域にも適切に還元することなどを求めています。還元の方法は金銭に限らず、さまざまな形が考えられます。

青森県では、県条例を制定しただけでなく、こういった条例があることを国に対し提案しています。いずれにしても、地方から「どのような地域でありたいのか」を積極的に発信していくことが求められています。「このようなことを実現したい」「こうした取組を進めたい」という提案を、地方から積極的に行うことが重要ではないかと思います。

もう1点、今回の総合計画に関連する環境政策上の重要な視点について申し上げます。

地球温暖化対策には、大きく分けて「緩和」と「適応」という2つの考え方があります。

1つ目の「緩和」は、温室効果ガスの排出量を削減し、温暖化の進行を抑える取組です。例えば、省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの導入などが挙げられます。

2つ目の「適応」は、緩和策を講じても避けられない気候変動の影響に対応する取組です。実際に、今日も非常に暑くなっています。このような暑さから市民の命や子どもたちの安全を守るため、クーリングスポットを設置することや、仕事・活動の時間帯をずらすなどが考えられます。つまり、温暖化の進行に合わせて、生活様式や社会の仕組みを変えていくという考え方です。

地球温暖化に立ち向かい、その進行を抑えようとするのが「緩和」であり、進行する温暖化とどのように共存していくかを考えるのが「適応」です。

この考え方は、今回の総合計画にも当てはめられると思います。二戸市にとって、人口減少は大きな課題です。人口減少をできる限り抑えるための「緩和策」と、人口が減少した場合でも、まちや地域社会を持続させるための「適応策」の両方を考えることが重要ではないでしょうか。

最初の意見として、以上の点を申し上げました。どうぞよろしくお願いいたします。

○生内会長

重委員、非常に参考になるお話をありがとうございました。

ここからは、各分野でご活躍されている委員の皆様からもお話を伺ってまいります。皆様いろんな分野での代表という方々であると思いますし、それとはまた別に思っていることもあると思います。どなたかご発言いただける方はいらっしゃいますでしょうか。

○小保内委員

前回の総合計画には、後期から参加させていただきました。その際はまちづくりの分野でしたが、今回は観光分野で参加しております。ただ、観光についてはあまり詳しくありませんので、まちづくりの視点から

お話しさせていただきます。

アンケート結果を拝見して、最も強く感じたことがあります。私たちがまちづくりや町内会など、さまざまな地域活動に取り組む中で、「後継者がいない」「若い人がなかなか入ってこない」という話を、いつでも、どこでも耳にします。

一方、アンケート結果を見ると、20代の定住意向が低いことや、「日常が退屈である」と感じていること、人材不足などが課題として挙げられています。これを見て、個人的には少しもったいないと感じました。

私たちや先輩方は、20代、30代の頃から、「二戸市にはこれが足りないから、こうしたい」「これをやっていかなければならない」と考え、新たな活動やイベントを立ち上げてきました。そうした取組の積み重ねが、現在の二戸市につながっていると思います。しかし、今は、なぜか次の世代になかなか引き継がれなくなっています。

その背景には、スマートフォンの普及など、さまざまな要因があるのかもしれません。私たちはまだ40代ですが、何かを始めたいと声を上げると、先輩方が必ず応援してくださいました。例えば、活動のための寄付をお願いすると、「いいから、やってみなさい」と背中を押してくれたり、二戸市は、そのような温かく、すばらしいまちだと感じています。

だからこそ、若者が日常を退屈だと感じているのであれば、退屈ではなくなるように、自ら何か行動を起こしてみればよいのではないかと思います。行動に結び付かない理由には、身構えてしまうことや、最初の一步を踏み出せないことなどがあるのかもしれません。

しかし、誰か一人が一步を踏み出せば、友人が「自分一人では踏み出せなかったけれど、あなたと一緒にならできる」と続いてくれることもあります。そうして、少しずつ人のつながりが生まれていくのだと思います。

町内会活動についても、次の担い手がなかなか入ってこないという課題があります。しかし、入ってきてくださる方は大歓迎ですし、その方が将来の担い手になってくださると期待しています。一方で、私たちも「若い人たちは忙しそうだ」と考え、なかなか声をかけにくい面があります。それでも、若い人たちが退屈だと感じているのであれば、もっと地域活動に参加してほしいと、アンケート結果を見ながら感じました。

また、前回の会議で私が強く申し上げた教育についてですが、現在の子どもたちは、地域の歴史や伝統について熱心に、そして楽しそうに学んでいると感じていますし、今の二戸市は、地域の歴史や文化を積極的に発信していると思います。

次の世代は大きく変わるかもしれません。一方で、スマートフォンの世界に閉じこもってしまう可能性もあります。だからこそ、若者だけでなく、二戸市の大人や高齢者、地域の方々も含め、誰もが最初の一步を踏み出せるようなまちにしていきたいと思います。

○山本委員

PTA 連合会の会長として参加しております。専門分野が「教育」となっていて少し恐縮ですが、保護者を代表してお話しさせていただきます。

まず、学校給食費の無償化についてです。物価が高騰している中、子育て家庭としては本当に助かっています。この場をお借りして感謝申し上げます。今後もぜひ続けていただきたいと思います。

今日の資料を見ると、2 ページの下の方に「不登校児童生徒の増加」が課題として挙げられていました。

私は市 PTA 連合会の会長と、福岡中学校の PTA 会長を務めています。福岡中学校では、全校生徒約 360 人のうち、20 人前後の不登校の生徒がいると聞いています。割合としてはかなり多く、大きな課題だと感じています。

私たちが中学生だった 35 年ほど前は、1 学年に 250 人くらいいましたが、不登校の生徒は 5 人いたかどうかという状況だったと思います。今は SNS などが発達し、何気なく送った言葉が思った以上に強く伝わってしまうこともあります。そうしたことから友人関係がうまくいかず、学校に行きたくないと感じる子もいるのかもしれません。もちろん、理由はそれぞれ違うと思います。

学校でもさまざまな対策を取っています。教室に入れない生徒には別室で過ごしてもらったり、ICT を活用してモニター越しに授業へ参加してもらったりしています。

また、1 年間ずっと登校できないということではなく、ある時期だけ登校が難しい子や、学校行事をきっかけに再び登校できるようになった子もいると聞いています。不登校は大きな課題ですが、学校でもいろいろ

ろな取組を続けているということをお伝えしておきたいと思います。

もう1点、福岡高校の校舎についてです。

昨年、県教育委員会が開いた高校再編に関する会議に、生内会長と一緒に出席しました。その際、当時の藤原市長とも一緒に、福岡高校の校舎を新しくしてほしいと県に要望しました。

令和12年度までの前期計画には入りませんでしたが、令和13年度以降の計画では、優先的な検討課題になっていると聞いています。ただ、物価や建築費が上がっているため、今後なかなか進みにくくなるのではないかと心配しています。

市からも県へさらに働きかけていただき、福岡高校の校舎改築を後押ししてほしいと思います。

中学校を卒業すると、多くの生徒が盛岡方面へ進学しています。その時点で二戸を離れてしまうと、そのまま二戸に戻ってこない可能性もあると思います。

まずは、地元の高校へ進学する生徒を増やし、地域とのつながりを深めてもらうことが大切です。そのためにも、福岡高校の魅力向上や校舎改築を、市としてぜひ後押ししていただきたいと思います。

○大建委員

いつもお世話になっております。金田一温泉旅館組合から参りました、大建ももこと申します。

私からは、観光の面で今少し気になっていることをお話ししたいと思います。

まちづくりに関するアンケートの中で、「日々が退屈だ」という意見があったこと、また、政策評価で満足度が低く、重要度が高い分野に観光が入っていたことに、少しショックを受けました。

金田一温泉には、何度も来てくださるリピーターの方が多くいらっしゃいます。なぜ繰り返し来てくださるのか聞いてみると、「二戸は素敵なおとろだ」と言ってくださいます。漆やおいしい食べ物、お酒、きれいな景色、プールや温泉など、二戸には魅力がたくさんあると、外から来た方々が教えてくださいます。

一方で、実際に二戸に住んでいる方、特に若い方々は、そうした魅力にあまり気付いていないのではないかと思います。そのことが、今回のアンケート結果にも表れているように感じました。

私は今年で二戸市民になって15年になります。青森県の十和田で生まれ、八戸で育ち、結婚を機に二戸へ来ました。15年ですので、二戸市民としてはまだ中学生くらいかなと思っています。

私が八戸にいた頃は、人口が25万人くらいいました。一方、二戸市は現在、人口2万人くらいの状況になっています。私は今年の春まで、岩手県の総合政策に関する取組にも関わっていました。県全体でも人口減少が大きな問題となっており、若者の都会への流出を食い止めようという動きが進められています。

県でも市でも、「人が足りない」という同じ課題を抱えています。ただ、私は二戸に来てみて、人口の少ない地域だからこその良さもあると感じています。

八戸にいた頃と同じように、「こういうことをやってみたい」と活動してきましたが、二戸では周囲の皆さんの協力と連携によって、思っていた以上の速さで夢が実現していく感覚があります。「こうしたい」と声に出せば、すぐにとはいかなくても、少しずつ確実に形になっていきます。

もしかすると、大きなまちよりも、二戸のような規模のまちの方が、自分の大きな夢をかなえられる場所なのではないかと、この15年間で感じるようになりました。

今の若い方々にも、二戸の日常は決して平凡でも退屈でもなく、自分から動けばさまざまなことに挑戦できる場所だと、もっと伝えていけたらよいと思っています。

外から訪れた方々が感じている二戸の魅力と、二戸に住んでいる市民の観光に対する意識には、少しギャップがあるように感じます。その距離を、もう少し縮めていけるのではないのでしょうか。

現在、金田一温泉は開湯400年を迎えています。皆様にもさまざまな面でご協力いただき、ありがとうございます。

その記念事業の一つとして、今、地域の昔話を掘り起こす活動を進めています。昔話を知っているのは主に80代、90代の方々ですので、その方々から話を聞き、文字に起こしています。それが本になり、本から絵本になり、さらにすごろくになるかもしれないということで、中学生や高校生、大学生にも協力してもらい、現在、LINEで遊べるゲームの開発にも取り組んでいます。

この取組がうまくいけば、「地域にあるものを生かし、自分たちの力でゲームを作ることができた」という一つの成功事例になります。若い人たちが、自分の夢をかなえるきっかけにもなるかもしれません。そのような可能性を信じて、頑張りたいと思っています。

○長島委員

漆掻きの長島です。アンケートを拝見すると、漆掻きに関する項目が、満足度・重要度ともに高い位置にありました。私は地域おこし協力隊として二戸に来て、今年で10年目になりますが、これまで取り組んできたことが無駄ではなかったのだと、少しほっとしています。同時に、これからも取組を続けていかなければならないと感じています。

中高生向けのアンケートには、「都会的で楽しいまちづくり」を望む意見がありました。私は埼玉県出身で、中高生の頃には、友達と電車で原宿へ遊びに行くこともありました。たまたま埼玉に生まれたことで、そうした楽しさを経験できたことに、少し申し訳ないような気持ちもあります。

ただ、埼玉の子どもたちに地元への愛着や定住意識があったかという点、半々くらいだったように思います。そのため、楽しい場所があることと、そこに住み続けたいという気持ちは、必ずしもイコールではないとも感じています。

とはいえ、二戸に来てから、「中高生は普段どこで遊んでいるのだろう」と思うことがあります。何があればよいのかは分かりませんが、もう少し楽しめる場所や機会があってもよいのではないかと思います。

先ほど、ももこさんから成功体験についてのお話がありました。中高生にやってみたいことを聞き、それを実現するにはどうしたらよいかを自分たちで考え、大人が協力して実行する。そのような体験があれば、この地域で暮らしていくことに希望を持てるのかもしれないと、お話を聞きながら感じました。

漆掻きについては、現在、必要な機器が少し不足しています。また、近年の気温上昇の影響もあり、生産量が落ちているという課題もあります。

後継者については、毎年何人かを育成しており、そのまま二戸に定住してくださる方もいます。一方で、数年たつと家庭の事情などにより、5年ほどで地元に戻る方もいます。そこを今後どのようにしていくかが課題です。

漆掻きには魅力があり、二戸に来てくれる方も多くいます。ただ、その仕事や暮らしを続けていくことの難しさは、私自身も感じています。

○五日市委員

私は金田一営農組合で働いており、主に米を生産しています。

昨年から米の価格が大きく上がり、一時的には良い状況になりましたが、最近の動きを見ると、少しずつ下落の兆しも見えています。特に食用米の価格は上がりましたが、地元向けに生産している酒米については、価格が上がっている一方で需要に大きな変化はない状況です。

今回お話したいのは、生産者が農産物を選ぶ理由についてです。大きく分けると、自分たちが作りたいものを選んで生産する場合と、「これを作ってほしい」という依頼を受けて生産する場合の2つがあると思います。

私たちが自分で選んで生産しているのは酒米です。一方、依頼を受けて大豆やそばなども生産しています。このほか、有機栽培や色の付いた米を作ってほしいという依頼もありますが、実際には、そうした要望に対応できるほど農地に余裕があるわけではなく、現在の生産を続けているのが現状です。

今、問題になっているのは、生産や管理を依頼される農地が増えていることです。生産者が減る中で、空いた農地をどう守っていくのかが、私たちの周辺でも大きな課題になっています。

例えば、生産者が70代、80代になったとき、その農地をどうするのか。次の世代に相続する方法もありますが、相続する息子さんや娘さんが二戸市に住んでいないケースも多くあります。

農地を売ることも一つの方法ですが、現在は農地の価格がそれほど高くないため、売買も現実的にはなかなか難しい状況です。そのため、農地を管理してくれる人を探すという方法が多くなっています。

金田一営農組合でも、委託を受けながら農地を管理していますが、それも限界に近づいていると感じます。農地の保全作業は、必ずしも農産物や収益を生むものではありません。作業には手間がかかりますが、その分を別の事業で補いながら経営しているのが現状です。

この状況を解決するためには、個々の経営だけで考えるのではなく、地域全体で農地を守る組織づくりが必要ではないかと思います。例えば、農業経営とは別に、農地の保全を担う団体があれば、解決策の一つになるかもしれません。ただ、そうした組織を実際に誰が担うのかという、新たな人材の課題も出てきます。

このような状況の中で、一つの希望になると感じているのが、スマート農業やDXなどの先端技術です。私のところでも、自動操縦技術や、ICTを活用した農地管理を取り入れています。ただ、私たちは使えていても、まだ周辺には十分に広がっていません。

こうした技術を使うには、自前で通信アンテナを設置しなければならない場合もあります。できれば、地域全体で利用できる基地局などを整備し、周辺の生産者にも技術を広げていければよいと思います。

もう1点、アンケートにもあるとおり、鳥獣被害も大きな課題です。10年前は、これほど被害が増えるとは考えていませんでした。耕作放棄地や手入れされていない土地が増え、そこを通過して野生動物が里へ下りてくるようになったことも、原因の一つではないかと思います。

農地を守りながら、自分たちが耕作を続けられる範囲をどのように確保していくのか。これからの農業を考える上で、非常に大きな課題になると感じています。

○小軽米委員

二戸市は、本当にとてつもなく良いまちだと思います。これほど連携が取れる地域は、ほかにはなかなかないのではないのでしょうか。

一方で、その良さを形にしていくことは、少し苦手なのかなとも感じています。

今回の審議会には30人が集まっていて、皆さんそれぞれの分野で、たくさん話したいことがあると思います。僕自身も、自分の分野について話し始めれば、30分でも1時間でも話せます。ただ、全員が5分ずつ話ただけでも、会議は夜中までかかってしまいます。ですので、そもそもこの審議会をどう進めるのかについても、少し考えてほしいと思っています。

第2回は9月の予定だったと思います。そこから意見を集約して総合計画を作るというゴールを考えると、今の進め方では、かなり時間がかかるのではないかと感じています。

「この場で、何について意見を出せばよいのか」ということを、この1か月ほど考えていました。総合計画を作る上で、まず話し合うべきなのは、計画の目的や理念の部分なのではないかと思っています。

二戸には、漆、天台寺、九戸城、金田一温泉など、たくさんの地域資源があります。そして、それぞれの分野で、皆さんが一生懸命取り組んでいます。そうした取組を一つにまとめる、最も上位の考え方のようなものがあればよいのではないかと強く思っています。

また、これからさまざまな活動に取り組む人にとって、判断基準や指針になる計画であってほしいと思います。

例えば、今、天台寺をライトアップしています。ただ、それが本当に二戸市の目指す方向と合っているのか、「天台寺はライトアップせず、昔からの雰囲気大切にしたい方がよい」と考えているのか。そのあたりを判断する基準が、今のところ分かりにくいと感じます。

天台寺については、浄法寺地域の方々と一緒に取り組んでいます。浄法寺地域をどう盛り上げていくのか、その判断のよりどころになる方針が二戸市にあれば、とても進めやすくなると思います。

結論としては、会議のあり方そのものを、もう少し考え直してもよいのではないかとということです。計画の策定に向けて、行政がどのように考えているのか、資料の5ページ以降に示されている方針について、委員にどのような意見を求めているのかを、もう少し明確にしていきたいと思います。その上で、スピード感を持って意見交換ができればよいと考えています。

まず確認したいのは、現在の計画に掲げられている「挑戦します！次代へ紡ぐふるさとづくり」を今後も継続するのか、また、第2次総合計画に書かれている背景や目的を、そのまま引き継いでいくのかという点です。

「挑戦します！」という言葉についても、誰が挑戦するのか。「次代へ紡ぐ」という言葉についても、誰が何を紡いでいくのか。こうした一つひとつの言葉を、もっと深掘りして話し合う時間があってもよいと思います。

そうすることで、審議会での議論がより活発になり、目指す方向を皆で共有しながら、総合計画を作っていけるのではないかと思います。

○横館委員

初めて参加します。子育て会議の委員をしております、横館です。子どもが好きで、子育て会議の委員を

6年、放課後子ども教室の活動を5年ほど続けています。また、昨年から福岡小学校の地域コーディネーターとして、地域と学校をつなぐお手伝いができればと思い、活動しておりまして、福岡小学校の子どもたちが、浄法寺の漆や神社などについて学ぶ校外学習や総合学習の際に、先生方の補助や引率をしています。

私自身も保護者なので、地域とのつながりをどこまで広げていけるのか、日々考えています。家族や近所との身近なつながりから、福岡地域、さらには市内全体へとつながりを広げ、地域の皆さんにも学校や子どもたちに興味を持っていただけたらと思っています。

前回、総合計画のワークショップに参加した際、「10年後」について話し合いました。これまでも、20年後、30年後を見据えたプロジェクトや会議に参加する機会はありませんでしたが、「10年後」というのは本当に身近な将来だと感じました。皆さんの意見も身近なものとして受け止めることができ、とても勉強になりました。

今回、何をお話しすればよいのか迷っていましたが、このように皆さんが意見を交わせる場があることは、とても大切だと思います。私もぜひ何か一言お伝えしたいと思い、発言させていただきました。

○薄井委員

二戸駅前地区連合町内会青年部の薄井と申します。満足度を示した表を見ながら、駅前地区が10年前、20年前から頑張ってきたら、今の位置にはいなかったかもしれないと感じました。

20年ほど前、若い世代が集まり、「まずはお祭りをきっかけに駅前地区を盛り上げていこう」と活動を始めました。それから20年間、みんなで頑張ってきました。最近では「駅前頑張っているね」と声をかけていただくことも増え、イベントの来場者数も目に見えて増えています。そうした成果が見えるからこそ、私たちも頑張りが続けることができます。

駅前地区連合町内会では、春、秋、冬にイベントを開催しています。皆様のお力添えもあり、何とかここまで続けてくることができました。

活動を続ける中で、何よりも大切なのは民間の力だと感じています。その上で、行政にもできる範囲でサポートしていただき、私たちの活動に寄り添っていただいています。そうした行政の力も非常に大きいと思っています。

地域の皆さんや協力してくださる方々と連携し、良いイベントを作り続けていけば、本当に魅力のある場所には、自然と人が集まってくると思います。「一緒にやりたい」という人や、「駅前で商売をしてみたい」という人も増えてくるのではないのでしょうか。

もちろん、簡単なことではありません。それでも「二戸駅前」を発信し続けることが、将来の新たな動きにつながるのではないかと思います、日々取り組んでいます。

これからも、魅力あるものを作っていけるよう頑張っていきたいと思っています。

○荒谷委員

公募委員として参加しております、荒谷です。現在は弘前医療福祉大学の救命学科で教員をしながら、防災研究所の研究員も務めています。

資料の11ページを見ると、防災は満足度も重要度も高い「強み」の分野に入っていました。アンケートの質問内容を見ていないので何とも言えませんが、防災という言葉は非常に幅が広く、自然災害から日常の救急まで全て含まれます。おそらく回答された方の多くは、自然災害をイメージしたのではないのでしょうか。二戸地域は自然災害が比較的少ないため、防災への満足度が高くなったのかもしれませんが、金田一で過去に土砂災害があり、亡くなった方がいたことを知っている高齢の方もいらっしゃると思いますが、全体としては災害が少ない地域だと受け止められているのだと思います。

ただ、日常の救急まで範囲を広げると、見方は変わってきます。少し厳しい言い方になるかもしれませんが、二戸地域は医療体制や消防力が十分とは言えない面があります。盛岡や八戸であれば助かるケースでも、二戸では残念ながら亡くなる可能性がある、という現状もあると思います。

そのため、質問の仕方によっては、防災は「満足度は低いけれど重要度が高い」という位置になることも考えられます。

空き家についても同じです。今回の計画には「空き家を活用したまちづくり」という前向きな表現があります。ただ、「空き家があることで放火の危険を感じないか」「地震で倒壊したときに、自宅が被害を受ける

心配はないか」と聞けば、回答は全く違ったものになると思います。アンケートの結果を見る際には、質問の聞き方にも注意が必要だと感じました。

今回この審議会に参加した背景には、二戸地域の防災士会長から「防災士会でも高齢化が進んでいるので、何か課題を提起できる場はないか」と声をかけていただいたこともあります。

防災力の強化は、単に防災士の人数を増やせばよいというものではありません。ここにいらっしゃる馬淵さんも防災士です。二戸市では以前、3か年計画で150人の防災士を養成しました。

馬淵さんも私も、防災士になった頃は40代から50代だったと思いますが、今は65歳です。防災士会長は75歳になっています。防災士を養成して終わりではなく、世代交代も含めて、組織や活動を維持していく取組を続けなければなりません。

また、防災士を増やしたことで、本当に地域の防災力が高まったのかという検証も必要です。防災士の養成に費用をかけたことで、具体的に何ができるようになったのか。その効果が見えにくいことも課題だと思います。

後期基本計画では、防災力の強化に当たって「自助・共助・公助」が掲げられています。しかし、地域全体の高齢化が進む中では、高齢者同士で支え合う「共助」が成り立ちにくくなっているのではないのかという指摘もあります。

すぐに結論が出る話ではありませんが、今までとは違う新たな防災施策を考える時期に来ているのではないかと思います。

もう1点、話は変わりますが、資料の12ページに、駅周辺に新たな施設を望む意見がありました。私も全くそのとおりだと思います。

弘前で暮らしていて、「こういうものが二戸にもあればいいな」と感じる施設があります。駅前の商業ビルの一角に、子ども向けの遊具を備えた、365日利用できる屋内の遊び場があります。

二戸でも、なにやーとに遊具を設置して開放しています。それも良い取組ですが、弘前では、同じフロアに図書館や行政、保険関係の窓口などが入っています。そのため、親子で安心して遊びながら、用事も一度に済ませることができます。

遊び場だけを設けるのではなく、子育て、図書館、行政サービスなど、複数の機能を組み合わせた施設が二戸駅周辺にもあればよいと感じています。

○生内会長

先ほどの防災の話にも関わりますが、折爪岳のヒメボタル観賞イベントが中止になりました。

ヒメボタルは、私たちにとって二戸を代表する素晴らしい地域資源の一つです。イベントの中止が決まった際、パークホテルの社長と「キャンセルがかなり増えましたね」という話をしました。私は二戸シティホテルですが、うちもパークホテルさんも、先週1週間で予約のキャンセルがかなり出ました。ヒメボタルを見るために、団体のお客様が多く訪れるからです。

また、漆掻きの職人の方が熊に襲われ、ニュースにもなりました。被害に遭われた方には、心からお見舞い申し上げます。漆掻きの方々にとっても、熊への恐怖を感じながら仕事をしなければならない、大変な状況だと思います。

天台寺のライトアップも、実際に夜見に行きたいと思っている方の中には「もしかすると熊が出るのではないか」という怖さが先に立ってしまう人もいます。こうなると、鳥獣被害というだけではなく、防災の問題として考える必要があると思います。

熊の被害は、今年だけの一時的な問題ではありません。来年、再来年、さらに10年後を見据えて、長期的な対策を考えていかなければ、同じことが繰り返されてしまいます。

熊の問題は、二戸のさまざまな分野に影響を与えています。今話題になっているから対応するのではなく、10年先を見据えた鳥獣対策に、市としてしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

(7) 今後のスケジュールについて

※今後のスケジュールと意見書の協力依頼について事務局より説明

5. 閉会